

機関番号：17201

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20530465

研究課題名（和文） 周辺の土地利用の実態

—ベトナム農村における市場経済と非市場経済の狭間

研究課題名（英文） The realities of land use in changing society  
: a case study of Vietnamese rural community

研究代表者

藤村 美穂 (Fujimura, Miho)

佐賀大学・農学部・准教授

研究者番号：60301355

研究成果の概要（和文）：

ベトナムの平地農村（特に紅河デルタ）や日本の伝統的な農村では、村落が、自分たちの土地管理機能や生活の互助機能を持っていたことが知られている。これらの機能は、インフラ整備が遅れがちな山村地帯では、現在でも重要な意味をもっている。この研究では、上記のような問題意識ののち、ベトナムの山村をとりあげ、彼らが現在どのような生活問題に直面しているかについて、移住や集落成立の歴史もふまえて調査を行った。

30年ほど前までは焼畑を生業としてきた調査村の人々は、定住生活確立後も、民族としての習慣（言語や儀式など）は守る一方で、土地の管理、集住に伴う衛生管理に関しては、コミュニティで管理する習慣を持ってこなかった。しかし、現在、衛生（トイレや廃棄物）については、灌漑や職の問題と並んで、大きな問題であると認識されている。

現在、村の生活実態、廃棄行動についてデータをまとめたところである。今度、文献もふまえてこれらのデータの関連性について考察していく必要がある。

研究成果の概要（英文）

In Japan and Vietnam, traditional rice farming community has their own system on land and life management. And Self-help ability especially in mountainous communities is important to solve and/or mitigate various kinds of problems because of poor infrastructure and governmental services. In this study, I focus on mountainous community that has a recent experience of settlement

It is interesting that they don't feel food scarcity as serious problem now. On the other hand, the Doctor of health center said that due to rice shortage and little or no consumption of fish and meat, there is prevalence of poor nutrition in the community

So, in this study, I tried to investigate about situations of current lifestyle and life problems in the mountainous community, And tried to find what kind of norm and social systems of themselves (community or ethnic group) have been put in place to mitigate them. And I find that they feel sanitation and irrigation and job is biggest 3 problem they faced now.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2009年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：周辺労働、土地利用、移住、ベトナム

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 近代における市場経済化や環境変容への対処（とくに農業など土地利用上の対応）、それを方向付ける社会・経済的要因について考えるための方法論や視点づくり、(2) 草の農業（稲など）／木の農業（林業）、定住／半定住（移住）など、生態系とのかかわり方や、社会的な役割分担意識や社会経済的状況に注目して、九州山地も含む、照葉樹林地帯を中心としたアジアの農山村における土地利用の方向性を把握する。

### 2. 研究の目的

農村における環境変化やそれへの対応のあり方について、経済的には「生業」として位置付けられていないような日常的な労働（＝周辺労働）の実態やそれをめぐる諸問題、それが行われる場についての実態調査をとおして把握すること。

### 3. 研究の方法

- ① キー・インフォーマントへの聞き取り、およびケーススタディによる実態調査（行動調査や参与観察）＝自給活動、資源利用の全体像、文化的慣習（性別役割分業や相続、宗教―）など、生活の全体的な把握。調査地全体の位置づけ。
- ② 資源の調達（自給・栽培）場所、担い手、市場経済化の実態、直面する問題、変化、判断基準など、周辺労働の実態にかかわるトピックについてのリストアップ。対象を絞っての調査の準備＝調査項目と場所の決定。
- ③ リストを参照して質問項目を決定し、それにもとづいた聞き取り調査や実態調査。
- ④ データの分析
- ⑤ 補足調査

### 4. 研究成果

ここでは、二つの調査地における調査のうち、まとめることができた「廃棄行動からみた、土地利用」についての成果を詳しく述べたい。

ベトナムのホアビン省にある山村であるA集落は、コミューン（行政村）のなかでももっとも貧しい集落のひとつとして位置づけられる集落で（政府による貧困対策プログラム135号の対象地域）、五十九戸、二

九〇人（二〇〇九年）のザオ（Dao）族が生活している。以前は近隣の省で焼畑耕作をしていたが一九六〇年代から政府の定住化政策によって徐々に現在の場所に移住、定着した。一九八〇年代の後半には集落近辺での焼畑や木材の伐採も禁止され、現在では水田稲作（自給用）のほか、キャッサバ、サトウキビ、タロ、トウモロコシを栽培し、自給用・畜産用の余剰分を販売して生活している。



事例地の位置

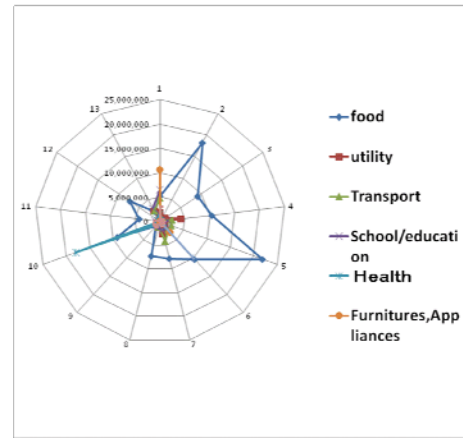
水田は 集落全体で約九ヘクタール（三ヘクタールのみ二期作が可能）である。水田稲作の技術が少ないうえに灌漑設備が整っていないため、どの家も三～四ヶ月分の米は購入しなければならないという。畑は約七ヘクタールで、その他、個々の家に分配された生産林が合計三十五ヘクタール、集落から十キロメートル（徒歩で二時間）のところに集落に管理をまかされた保護林六十ヘクタールある。現在、七軒をのぞくほとんどの家にモーターバイクがあり、市場のあるコミューン（行政村）中心地まで三〇分ほどで行くことができる。

おもな現金収入はこれらの換金作物や畜産による収入であるが、農業生産は気候に大きく左右されて不安定であるため（たと

例えば、二〇〇七年度は台風の被害で、米とトウモロコシはほぼ壊滅状態であったという)、村人たちは小店舗の経営や森林生産物の加工、販売などさまざまな副業を行い、まとまった現金が必要な際は外国や他県で出稼ぎに出る。

村の老若男女九人によるフォーカスグループディスカッションにより、生活状況を図る指標について討議を行った結果、彼らの実感する生活の豊かさ(貧富)を示す指標として、牛と水牛の数、借金の量、家具、家の屋根と壁の材料、消費の量、家族の健康状態が挙げられた。たとえば、コンクリートの家に住み、テレビやベッド、ダンスなどを持ち、借金がなく、収入源である牛・水牛を多く持つ家、あるいはトレーダーをするなど現金獲得手段を持っている家は裕福であるとされる。一方、病気などで働くことのできない家族を抱え、家畜も少ない家は、家の材料も山から得た木や竹や葉でまかなわざるを得ず、家具も少ない。調査は、このような基準で選ばれた十八軒を対象に行われた。(二十軒を選択したが、うち二軒は不在および病気のため調査不可能)

下の図は、彼らの消費行動(金額換算したもの)をまとめたものである。全体的に、食費が多いが、これについては世帯ごとに差がある。さらに、成年式(男子が14歳になったときに名づけ式を行う)や結婚式がある年には、莫大な富が使われる。



次に、五日間の廃棄物(処理をせずに保管したもの)と同期間のあいだに使用したものについての調査を行った。どの家でも共通してみられた廃棄物は、バナナの皮や茎、葉(皿や食物の包装用として利用したもの)、ビニール袋(菓子、シャンプー、調味料袋、買い物袋)、トウモロコシの芯(燃料として使う場合も多い)、植物の葉・茎(タケノコの皮、キャッサバの葉や茎、クウシン菜の茎、パパイヤの葉など多くの野菜)である。その他、家によってカボチャ、キュウリなどの野菜のへた、藍染に利用した葉、鶏の羽根、使えなくなった衣服、靴、乾電池、石鹼や菓子の箱、卵の殻、菓の包み、発泡スチロール、電気コード、割れた瓶類、果物の種などがある。

フォーカスグループディスカッションによって3つにランクづけされた家々のなかで、もっとも裕福とされる家の廃棄物の種類をみると、十種類の廃棄物のうち、ビニール袋(買い物袋、インスタントラーメン、洗剤類など)、木くず、籐の籠以外は、すべて庭や畑、山で収穫された植物類(人間、豚用)であり、町での買い物の量を示すビニールやプラスチック類が多いという予想に反していた。他方、貧しいとされる家のひとつは、大量のビニール類のほか、バナ

ナ、パパイヤの葉とボールペン、別の一軒は、少量のビニール類、ペットボトルのほか、鶏の羽根、卵の殻（2個）、トウモロコシの芯、五種類の植物類（人間・豚用）などであった。

#### Where and how do you dispose of these household waste products?

	Bury		Incinerate		Throw away		Give livestock	sell
vegetables			2	garden	10	garden	8 (pig, fish)	
animal fish			4	garden, kitchen	4	garden (hole)	7 (pig, dog)	7
Plastic bag			9	garden, kitchen	6	garden		
paper			9	garden, kitchen				4
glass	1	father's house	1	garden	7	garden hole, stone field, forest hole, open toilet		
PET bottle	1		2	kitchen, dry field	10	garden, dry field, forest, small hill, vegetable field		2
can					1			13
others			1	garden				

#### How do you deal with bodies of dead people and animals?

	Bury		Incinerate	Throw away	eat	other way
Normal people	7	grave				
Sick people	6	grave				
Normal animals	1	garden			5	
Sick animals	11	hill, outside of Xon, garden hole, forest, forest hole,				
placentas	4	garden, field, forest				3 (use for medicine)
Stillborn baby	1	grave				

上の二つの表は十三軒に対して、日常的に出る家庭ゴミの処理について聞き取りをした結果をまとめたものである。

大きな傾向をみると、アルミ缶や紙、大きな骨、ペットボトルについてはリサイクル用に販売している家もあり、特にアルミ缶についてはすべての家が毎日のようにダバックの中心部から収集に来る個人のコレクターに売っている。

その他の廃棄物は基本的には自分の家の庭や畑、生産林（森）で処理しており、家の周辺で処理できないものについては、使われなくなった井戸やその他の自然の穴、石野原のように誰も使わない場所に捨てて

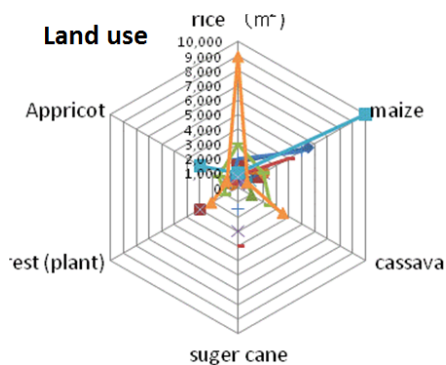
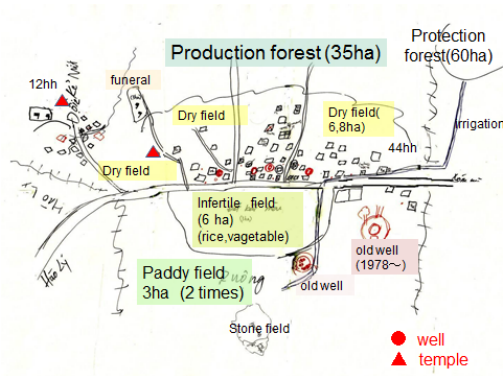
いる者が多い。ただし、豚の餌として利用するもの以外の処理方法は、家によって様々である。

死んだ家畜については、事故で死んだものはほとんどの者が食べるが、病気で死んだ豚や鶏は、森にある穴の中に捨てたり、村はずれの森に捨てたり、畑に埋めたり庭で焼却してから埋めるなど、様々である。ガラスや陶器などは、家の庭のほか、森の中にある穴（岩の割れ目）や使われなくなった井戸などが捨て場所として使われている。

このように、処理については廃棄物の種類によって大まかな傾向はあるものの、統一されたゴミ捨て場や廃棄方法はなく、処理方法は家によってさまざまであることがわかる。

そもそもA集落の人びとは、焼畑で生活し、大火などのよくないことが起きると土地を捨てて移住してきた人びとである一九八〇年代の後半までは、新しい生活に適応できず、元の村に戻った家も多い。一九九〇年代に外国の援助団体のプログラムによって集落までの道路を通し、平地部分は畑にした結果、畑の面積は倍になり、生活は便利になった。その一方で、集落は山の斜面に密集したかたちとなり、廃棄物やトイレの悪臭問題などが大きな生活問題となった。

土地利用については、定着して農業を行ううえで最も重要な水問題を中心に聞き取りを行った。井戸や灌漑の状況、土地利用の変化についての聞き取りを行った結果を、それぞれ地図にまとめたもの、面積を世帯別に表したものが、次の図である。



日本のかつての農村とは異なり、廃棄物や動物の死体を捨てる場所などは決められていないが、水源や墓などは、宗教的な意味づけがなされ、宗教的指導者のもとに管理されている。

今後、A村をとりまくこれらの社会状況、土地利用、その担い手などのデータを互いに照らし合わせて、課題についてのまとめを完成させたい。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

1、藤村美穂「廃棄物からみたベトナム西北部農村の生活 -ホアビン省の事例から」  
アジ研ワールドトレンド 177, 2010年,  
16-19, 査読なし

[学会発表] (計2件)

1、*Living problems of mountainous*

*community after settling down : a case study of Dao village in Hoa Binh province, Vietnam*: The 6th International symposium (draft) Hosted by the United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University (UGSA) (2011, 3, 14) (藤村美穂)

2 *Paddy Fishing as a Fish Protein Procurement System: A Case Study of Loum Pa in Attapeu Province, Lao PDR*、3rd National Health Research Forum (2009,10,2) (大坪竜太、藤村美穂、辻貴志), Champasak Pakse (ラオス)

[図書] (計 0 件)  
[産業財産権]  
○出願状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]  
ホームページ等

#### 6. 研究組織

(1) 研究代表者  
藤村 美穂 (Fujimura, Miho)  
佐賀大学・農学部・准教授  
研究者番号：60301355

(2) 研究分担者

辻一成 (Tsuji, Kazunari)  
佐賀大学・農学部・准教授  
研究者番号：00253518

(3) 連携研究者  
( )

研究者番号：